

## 指導教官の像

烏 蘭 都 欣

現在、私は3人の先生に指導していただいています。しかし、指導教官といえますと、やはり千歳壽一先生が浮かびます。先生は六年間、私の指導教官でした。

留学生として、六年前、私は日本の女子大学の入学面接試験を受けることになりました。井内先生の紹介を通じて、私の面接をしていただいたのが千歳先生でした。その時、先生は真剣に私の下手な日本語を聞いていましたが、「厳しい先生だ」という強い印象を受けました。そのとき以来、千歳先生と話す時はいつも緊張感がありました。

中国の画一的な教育を大学まで受けた私は、先生の教えたことをまずそのまま受けて、その後に考えることが当然だと思いました。しかし、千歳先生はその逆でいつも私が何を考えて、何を勉強したかを聞いてから、肝心なところについて簡単明瞭にアドバイスして下さいました。当時はそのような先生の指導方法は私にとって、とってもし新鮮に感じられました。いま、六年が経ち、日本のことにも少しずつ慣れてきて、先生のこと思い出すと、一つ一つが懐かしく感じます。

学問上、先生はいつも重要なところについて導いて下さいました。日本語を細かく直していただ

いたこと、修士論文のテーマを何回もアドバイスしていただいたこと、先生の一言で、修士論文の実証性を高めるためのアンケート調査の始まったこと、「論文というものは、結論か研究方法がオリジナルだということです。」という先生の言葉、博士課程に進学することの相談…。

先生の優しい気持ちを感じたこともたくさんありました。修士入学試験の前、先生からいただいた湯島神社模様のカード、修士修了のお祝いいただいたコンサートチケット、最も多いのは、講義後の先生とのちょっとした面白いおしゃべり…。最も心に残ったことは、私がやっと博士課程に入った時、先生が私に「君、よく頑張ったね」と言って下さいました。その時なんだか胸がいっぱいでした。

先生が私に「受ける」ではなく、「考える」ということを教えて下さいました。しかし、学業上成果がない私は先生の前でいつも感謝する気持ちと自分に慚愧する気持ちでいっぱいです。先生が退官することになり、寂しく思いますが、先生との心の交流はこれからもまだまだ続くことを願っています。先生、いままでありがとうございます。先生のこれからのご活躍、ご健康を心からお祈りします。

## 千歳先生のご退官に当たって

内 藤 博 夫

千歳壽一先生は1991（平成3）年、お茶の水女子大学に着任された。都庁に勤務されていた時期の情報教育に関する実績が評価され、一般教育の情報学を担当する教官として迎えられたのである。一般教育情報学は地理学科が担当することになっていたため、千歳先生は着任当初から地理学科の教官として待遇された。その後、学内の人員構成が変わり、千歳先生は地理学科

の人文地理学講座の教授に就任されることになった。

千歳先生と初めてお会いしたのは、先生が都庁の職員であった頃、学会の研究会が何かにおいてであった。その時の印象は、都庁という役所に勤めながら学会に足を運ぶ研究熱心な方というものであった。実際、役所の業務をこなしながら、ご自身を学界の水準に合わせていくに